



学校便り 8月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和6年8月21日 責任者 校長 永野 俊也

学校 HP



学校ブログ



里周辺海水温
32℃(8/15)

五年ぶり開催のカズラタテ！

里の伝統行事を味わう

校長 永野 俊也

夏休みも残り 10 日余りとなりました。みんなそれぞれよき体験と学びを重ねることができたでしょうか？ この夏休みはパリ五輪が開催されました。アスリートたちの姿は、多くの活力と感動をもたらしてくれたと思います。また、改めて、危機意識を持たなければならない出来事もありました。

8.8 の宮崎県で発生した震度 6 弱の地震、その時私は鹿児島市の黎明館で研修中でしたが、一斉にスマホから鳴り響いた緊急地震速報の後、「来る！」と思った瞬間、建物が大きく揺れ始めました。ここで震度 5 弱、幸い館外避難の指示が出る前に地震は収まり、館内に保管してある国の重要文化財等の被害もなく終わりました。「もし、自分が学校にいない時に、こんな地震が起きたら…」という思いを巡らし、備えることの重要性を再認識したところです。

さてそんな中、この夏休み、何と言っても一番の思い出と体験は、赴任して以来 4 年目にして、初めて見る カズラタテ！ 150 周年記念誌を書いている時から、早く見たい！と思っていた、甌島で里にしかない伝統行事に初参加することができました。一番盛り上がるカズラマキでは、真ん中ぐらいを持ってましたが、1 回目の里中では、無事に渦に乗るカエルを支えることができました（かなり



重たい…) が、2 回目のみなと公園では、想定を超える遠心力で綱を支えきれず飛ばされてしまいました…。それでも勢いよく走って、綱をぶつけあったり、途中で大きく前の動きに合わせてうねったりと、とても楽しかったです！そして、これで無病息災の御利益で言うことなしです♪ 里もこんなに若い人たちがあふれて、人がいっぱいという光景を見ることができ、それだけでも嬉しくなりました。

さて、ここでこの楽しいお祭りをこれからも伝承するためにはどうすればよいのでしょうか？ それを小中学生や島立ちした高校生に聞いてみましょう。以前は、5 自治会でそれぞれカズラ綱を作っていたものを、今年は里村全体で 1 つ作りました。行事の維持としては最終ラインです。楽しいお祭りには、準備が必要です。まず、前日早朝カズ

ラを山に採りにいかなければなりません。教頭先生と一緒に参加しましたが、結構大変な作業です。

それから、当日の朝、カズラで綱を編む作業。これにはベテランの技を必要とします。昔は、これらの作業は若者の仕事だったそうですが、大先輩方を中心に綱



は編まれました。特に中高生、この準備段階から参加していかなければ、祭りの維持は難しくなるのでは？ スマホを置いて、来年度は作るどころから参加してはいいでしょうか。



玉石アート教室

8/20 (火) に、玉石アートの教室を開催しました。

里産の玉石に、好きな物や里の風景、生き物などを自由な発想で浮かんだアイデアを思い思いに描いていました。

できあがった作品は、トンボロ芸術祭へ出品する予定です。

里の鮮やかな光景の一つとして、里の秋を彩ってくれます！



9月行事



- 1 日 (日) PTA 美化作業
- 2 日 (月) 始業式・大掃除・身体計測
- 3 日 (火) 生活リズム指導週間 (~9 日)
- 4 日 (水) 委員会活動
- 5 日 (木) ALT 来校
- 6 日 (金) 幼小中行動運動会練習
- 9 日 (月) 純心大インターンシップ (~13 日)
- 12 日 (木) かのこゆり号来校
- 13 日 (金) 幼小中合同運動会練習
- 14 日 (土) 土曜授業
- 17 日 (火) ALT 来校
- 18 日 (水) 幼小中合同運動会予行
- 19 日 (木) 幼小中合同運動会準備 (5,6 校時)
- 22 日 (日) 幼小中合同運動会
- 23 日 (月) 秋分の日振替休日
- 24 日 (火) 運動会振替休日
- 27 日 (金) EST 来校
- 30 日 (月) ALT 来校



俳句教室

7/19 (金) に、成尾先生をお招きして、俳句教室を行いました。

季語の使い方やどのような表現が子供たちの思いを表すのによいかアドバイスをもらうことができました。

それぞれの子供たちが夏休みの素晴らしい作品を書くことができました。

田植え体験

7/18 (木) に、3・4 年生のふるさとコミュニケーション科の学習で田植えを行いました。小川豊博さんの説明を聞き、育てた苗を手で植えていきました。3 年生にとっては初めての田植え体験で、最初はとまどっていましたが、4 年生に教えてもらったりしながら次第に上手に植えていました。

収穫が楽しみです。



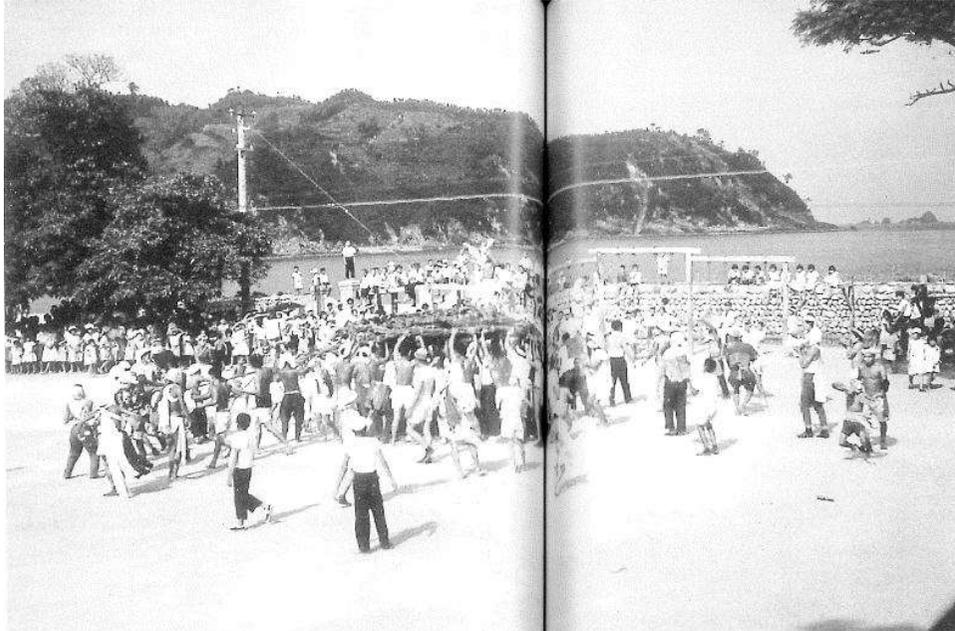
今月の付録 カズラタテ と 南九州の十五夜行事

～ 里の十五夜関連行事を探る ～ (その2)

バッコウ節句 ～女の子の年に一度の楽しみ～ 中村和子さん (「里村、あの日あの時」より) からの考察

さて、今月は上記の中村和子さん(蘭中)の文章より十五夜関連行事の考察を進めたいと思います。それによると、旧暦8月1日「ハッサクの日」には、女の子だけがお重箱のお弁当箱を持って、各地区の決まった場所に集まり、お弁当を食べ1日遊ぶとても楽しいイベントがあったそうです。当時「遊ぼう」ということを「バッコウしよう」と言っていたことから、このイベントを「バッコウ節句」と呼ばれるようになったのではないかと記載がありました。このイベントは昭和22年頃まであったようです。では、この時の男の子たちは??? という、当時は子供のカズラタテというものがあつたらしく、大人たちが数名手伝って、カズラ綱を作り、山から降ろして集落を歩く(ツナヒキヅリ)。そして、その綱を切って、祭りの化粧や寄付をもらった家、お店に配ったそうです。(カズラは火のつきがよく、当時は薪の着火剤として重宝したようです。)

こうしてみると、里の一連の十五夜行事は、旧暦8月1日「バッコウ節句」「子供のカズラタテ」からスタートし、そこから子供たちや青年が放課後、山にカズラを集めておき、大人も加わって13日にカズラ綱を編み、5集落それぞれ山から降ろしてカズラタテを行う。そして15日、綱引と相撲を行い、一連の十五夜行事は終了する。というかなり大規模なイベントであったようです。



そして、この一連の十五夜行事は、小野重朗氏の「十五夜 綱引の研究」によると、南九州全域で行われていた十五夜行事で、多くの共通性が見られるということ。下の写真左は、奄美の住用村の子供たちによるツナヒキヅリですし、その右は指宿の綱引に臨む子供たちの姿です。このような姿は、里村時代の子供たちにも見られたようです。



(住用村西仲間)



← 里小で行われているカズラマキ!
(*よく見ると、この写真には里小初代正門が写っていました。)
(写真「里村、あの日あの時」より)

十五夜と綱引 これは、月と蛇
というつながりを連想させます。

旧来、欠けては満ちる不老不死の月と、脱皮更生を繰り返すと考えられた蛇

それにカズラだって、その語源は、植物の持つ生命力を髪飾りとして身に付けようとした、

「髪つら」 → 「カズラ」 です。



(村西公民館に残るカズラタテ出発の様子)

1年で一番月が輝いて見える十五夜の日、人々は自然の中から大きなエネルギーを得ようとした、そして五穀豊穡を願う気持ちに転じていった、そのために様々な行事が行われるようになったというのは、自然な流れなのかもしれません。

もう一つ考えられることは、南九州いわゆる薩摩藩の郷中教育が影響を及ぼした地域に、これらの行事が根付いていることです。十五夜の綱引や相撲は、もともと「子供組」と「青年組」で行われていたようで、里でも「子相談」(コソーダン)と呼ばれる14歳を筆頭としたグループが青年組(ニセシュウ)に挑む構図があったようです。多くの地域がそうで、これには子供たちの通過儀礼としての意味合いがあったのではないかと気がします。

薩摩藩は5人組の制度を敷き、そこから門割制が生まれましたが、里ではそれが小組合として継承されています。そして十五夜の綱引も、この小組合対抗であったこと。そして今の自治会公民館を昔は学舎と呼び、若者が集いよく学び、議論する場でもあったことなど、この里という地域は、昔ながらの文化の名残を多く感じさせてくれます。

他では消えてしまった行事が、里だけは残っていたり、またこの里だけにしかない行事があつたりというのは、こういった気質が影響しているのかもしれないと思いました。とても興味深く、また素敵なことだと思います。

さて、このシリーズも次回が最終回となります。十五夜行事の中で、なぜカズラタテが残ったのか? 考えていきたいと思っています。

そして、せっかくなので「さっくら踊り」についてもふれたいと思います。少し関連があるかも???